



ふくし学習 ガイドブック

～児童・生徒一人ひとりが自分ごととして考えるためのきっかけづくり～

社会福祉法人 小諸市社会福祉協議会

令和7年

1 はじめに

小諸市内の小・中学校で、“ふくし学習”推進のための役立つ情報を提供できればと思い、このガイドブックを作成しました。「なぜ“ふくし学習”が必要なのか?」「“ふくし学習”を通じて何を学び、何を伝えるのか?」について、わたしたちからの提案です。

2 社会福祉法人 小諸市社会福祉協議会とは

小諸市社会福祉協議会は、社会福祉法で「地域福祉を推進することを目的とする団体」として位置づけられています。この「地域福祉の推進」は、「誰もが幸せに暮らせる地域社会の仕組みづくり」と言い換えることができます。その活動の一つとして、学校を含めた地域のさまざまな場面で進められる“ふくし学習”を支援しています。

3 ふくし学習とは

『みんなの ふ（ふだんの） く（くらしの） し（しあわせ）を考えるための学習』

“ふくし学習”では、以下の5つのチカラを引き出すための取り組みを目指しています。

① 友達や仲間だけでなく、自分を思いやるチカラ

・「ふだんのくらしのしあわせ」のために自分を大切にし、友達や仲間を思いやる。

② 自分との違いや自分を認めるチカラ

・自分と“違う人”に出会った時に、仲間外れにせず、認め合う。

③ 自分の想いや考えを相手に伝えるチカラ

・自分の想いを相手はどう思っているだろうか、想像しながら相手に伝える。

④ 自分のこととして考えるチカラ

・今起きていることを、自分ごととして考えられる。

⑤ 自分で考えて行動するチカラ

・関心をもったことをきっかけに、「知る」、「学ぶ」、「行動する」につながる。



4 ふくし学習実施までの流れ

1) 事前相談

ご相談に応じ、学校方針とすり合わせながら内容を一緒に考えます。直前だと調整できないこともありますので、お早めにご連絡をください。ご都合に合わせて伺いします。

	内容
打ち合わせ	実施の目的や実施日・会場・対象学年・参加人数を確認します。 目的に沿って内容を相談します。 当日のタイムスケジュール調整をします。 ※実施内容により打ち合わせを重ねることもあります。 ※原則謝金は不要ですが、講師により謝金が必要になる場合もあります。
事前準備	体験コースの設定や児童・生徒へ福祉のイメージや質問を聞いておくなど当日に向けた準備を進めます。 ※必要備品などを相談していきます。

2) 当日

機材の設置、体験学習の準備をし、タイムスケジュールに沿って実施します。

コラム [疑似体験プログラムの落とし穴]

福祉教育の取り組みというとまず思い浮かぶのが、疑似体験プログラム（ex. 車いす体験、アイマスク体験、高齢者疑似体験など）です。学校を中心に様々な場所で行われています。しかし、疑似体験を実施する際、そのプログラム内容は目的と合っていますか？ 例えば、車いす体験をする際に目的が「介護技術を学ぶ」であって、車いすの扱い方や介助の仕方を学ぶ、ということであれば車いすに乗ってみる体験をしなければなりません。

では、目的が「障がいを理解する」であった場合はどうでしょう。車いす体験だけで『障がい』について理解ができるでしょうか？ この場合「障がいのある人はこんなに大変なんだ」というような負の部分しか伝わりません。

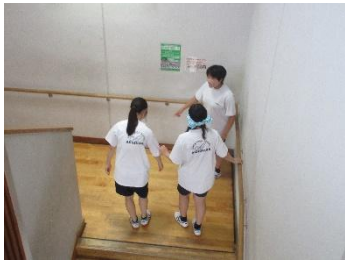
プログラムに疑似体験を取り入れるのなら、目的に合わせて当事者を招いたり、映像や写真のような資料を活用することも重要です。実践を通して何を感じてほしいのかを明確にし、目的に合ったプログラムを考えましょう。（出典：「保存版 福祉教育のススメ Ver.2020」監修 原田正樹）

5 ふくし学習プログラムの提案例

(座学)

テーマ	所要時間	概要	実際の様子
ふくしって何？	45分～	“ふくし”って何だろう？ ふくしは特定の誰かのためでなく、わたしたちの暮らしの身近なところにあります。決して特別なものではないことを一緒に学びます。	
認知症を知ろう	45分～	認知症は誰もがなりうるといわれています。認知症の症状や状態を知り、わたしたちができる適切な対応や認知症の方の気持ちなどを一緒に学びます。	 小諸市 認知症サポーター養成講座 認知症になっても住み慣れた地域で 自分らしく生活し続けられるために  令和5年7月21日（金） 小諸市役所高齢福祉課
SOS の出し方を 知ろう	45分～	「自分は大切な存在」であると知るとともに、ストレスに適切に対処するための方法や、悩みを抱えず、助けを求めることができるよう一緒に学びます。	
ふれあい座談会	要相談	高齢者・障がいのある方と関わる職員、民生・児童委員など、実際に福祉の現場で活躍されている方たちから、普段の仕事や役割、大切にしていることなどを教えてもらいます。	
当事者とのトークセッション	要相談	障がいを抱えて暮らすってどういうこと？わたしたちはどう関わればよい？分からないことは当事者から教えてもらうことが一番です。実際の暮らしぶりや想いを教えてもらいます。	

(体験)

テーマ	所要時間	概要	実際の様子
車いす体験	4 5 分～	ケガや病気になり、普段何気なく過ごしている校舎で車いすを使うとどうなるだろう？車いすに乗ってみえること、介添えしてみえることを一緒に学びます。	
アイマスク体験	4 5 分～	目から入ってくる情報がないと耳や手からの情報が大切になります。目の見えない方への言葉選びや表現、伝え方、関わり方をそれぞれの立場になって一緒に学びます。	
点字体験	4 5 分～	点字は、コミュニケーションツールの一つです。自分で作った点字が目が見えない方にきちんと伝わるか。当事者との交流を通して、様々な気づきにつながります。	
手話体験	4 5 分～	小諸市でも手話言語条例が制定されました。手話は言語の一つです。言葉でなく、手話を通じたあいさつや自己紹介、日常的な会話などのコミュニケーションを一緒に学びます。	
高齢者疑似体験	4 5 分～	歳を重ねると、見え方、聞こえ方、足の動き方などいろいろな変化が出てきます。疑似体験を通して、自分にできることを探します。 ※セット数に限りがあります。	
ボッチャ体験	4 5 分～	ボッチャは年齢、性別、障がいの有無に関わらず、誰もが楽しめるスポーツです。楽しい時間を共有することの大切さを一緒に学びます。	

当事者との交流	要相談	福祉施設の利用者の方などと、交流しましょう。交流をきっかけとして利用者にとっての普段の暮らしを知り、わたしたちにできることはなにか一緒に学びます。	
---------	-----	---	---

(貸出)

テーマ	所要時間	概要	実際の様子
学習用具の貸出	要相談	学習用具の貸出を行います。 ※数に限りがあります。 ・車いす ・点字セット ・高齢者疑似体験セット ・ボッチャ など	

先輩たちの声

○体験をするだけで終わらせるのではなく、「こういう場面だったらどんな風にするのだろうか？」と思いながら体験していきたいと思った。

○障がいがあってもなくても、同じように接することが大切だと思った。

○相手のことを想って行動することがよいと感じた。

○福祉は、「誰かのために」と思っていたけど、「みんなが幸せ」という考えで生活していきたい。

○否定せずに、相手が喜ぶような返しをすることは、認知症でなくても、人付き合いでは大切なことと感じた。

○人それぞれ幸せの価値観は違うし、自分だけの価値観を人に押し付けるのはよくないなと思った。

○認知症の学びのなかで「不便ではありますが、不幸ではありません。」という部分が印象に残った。

ふくし学習に関わった方の声

○地域のなかでお互いさまの心で関係を築ける一助になればよいと思う。

○子どもたちとなかなか出会う機会もないので、とてもよかった。

○子どもたちにどう伝えるかを考えると、改めて原点を考える機会になった。

6 さいごに

大切なことは、学校関係者・地域住民・児童・生徒が一緒になって、同じ地域で生活する一人暮らしの高齢者や障がい者の存在を知り、思いや悩みを共有することです。そこから、さまざまな生活や生き方があることに気づき、福祉問題、福祉活動の意味や役割に関心をもつことで、思いやりの心が生まれると思います。こうした「思いやりの心」について、児童・生徒一人ひとりが主体的に考えられるきっかけを作ることが、わたしたちの考える“ふくし学習”です。



用語説明

○民生・児童委員…地域住民からの相談・支援に応じ、社会福祉の増進に努める方々

○手話言語条例…手話への理解、普及を目指して小諸市で制定された条例

ふくしのマーク

ピクトグラム	障がい者のための 国際シンボルマーク	耳マーク	ヘルプマーク
文字を使わなくても情報が伝わるように絵や図で表される記号です。	障がいを持った人が利用できる建物・施設であることを示すマークです。	耳が聞こえない・聞こえにくいことを示すマークです。	外見からは分からない配慮を必要としている人が、助けてほしいことを周りの人に示すマークです。